



2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年2月14日

上場会社名 ネクストウェア株式会社 上場取引所 東
コード番号 4814 URL <https://www.nextware.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 豊田 崇克
問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 管理本部長 (氏名) 渡邊 博和 (TEL) 06-6281-9866
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績(2024年4月1日~2024年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	2,179	11.0	△122	—	△123	—	△137	—
2024年3月期第3四半期	1,963	△6.5	△147	—	△140	—	△145	—

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 △137百万円(—%) 2024年3月期第3四半期 △145百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	△10.80	—
2024年3月期第3四半期	△11.44	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	1,469	1,191	81.1
2024年3月期	1,687	1,328	78.7

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 1,191百万円 2024年3月期 1,328百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	0.00	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,000	6.4	30	—	30	—	10	—	0.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期3Q	13,015,222株	2024年3月期	13,015,222株
2025年3月期3Q	308,719株	2024年3月期	308,719株
2025年3月期3Q	12,706,503株	2024年3月期3Q	12,706,503株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、一部に足踏みが残るものの、全体としては緩やかに回復しています。先行きにつきましては、緩やかな回復が続くことが期待されますが、欧米の高金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続など、海外景気の下振れが国内景気を下押しするリスクとなっています。

当社グループが所属する情報サービス産業におきましては、競争上の優位性を確立するDX（デジタルトランスフォーメーション）関連の需要が引き続き堅調に推移しており、生成AIを活用したAX（AIトランスフォーメーション）への投資が拡大すると見込まれます。また、クラウドサービス市場の拡大により情報セキュリティの重要性も高まっております。

当社グループは、ソリューション事業において、今般のクラウド社会の進展に対応するためDX・AX事業へ積極的な投資を継続し、安定した収益を確保できるクラウド型事業モデルへの転換を図っております。今後の成長分野であるクラウドサービス事業を拡大するため、大阪市内にデータセンターを開設し、ネットワークサービスへの投資を加速いたしました。加えて、次世代ネットワーク人材の採用や既存社員のスキルアップなど、社内人材への先行投資を積極的に行いました。その結果、売上は増加しましたが、利益は営業損失となりました。

エンターテインメント事業では、NHK連続テレビ小説「ブギウギ」の放送を契機に、株式会社OSK日本歌劇団の知名度が向上し、日本全国での公演を拡大する戦略を取りました。その結果、大幅な増収となり、黒字化を達成しました。また、当社グループのシナジー効果を高めるため、2024年8月に株主優待制度を新設しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,179百万円（前年同四半期比11.0%増）、営業損失は122百万円（前年同四半期は147百万円の損失）、経常損失は123百万円（前年同四半期は140百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は137百万円（前年同四半期は145百万円の損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① ソリューション事業

DX・AI事業においては、クラウド型ネットワークサービス事業を推進しております。当社が投資したデータセンターを活用し、顧客の既存のシステムをクラウドシステムへと移行するサービスを展開しております。また、台湾SaaS企業との戦略的協業により、電子署名サービスの販売も開始しております。今後は、Microsoftが提供する365システムの販売およびコンサルティングを行い、当事業を加速させます。

顔認証ソリューションは、生体認証技術によりセキュリティの強化と利便性の向上を同時に実現するソリューションです。高度なセキュリティ要求に対応するため、従来の入退室管理に加え、万引き防止ソリューションの開発および販売を進めております。大手警備会社2社との顔認証プロジェクトはPoC（概念実証）フェーズを通過し、次のフェーズへ進展しております。さらに、セキュリティ強化分野だけでなく、新たに人流分析ソリューションなどマーケティング分野への進出も図っています。

顧客の生成AIを作成するコンサルティング事業は、設備データを波形データに変換し、AIに学習させるシステムソリューションです。この生成AIを用いて顧客は設備の異常予兆検知を行い、製品の品質管理や設備のメンテナンスの省力化を実現できます。海外に拠点を持つ日本企業から高い評価を得ており、国内での受注も進んでおります。今後も当社の優位性と先進性を確保し、他の産業分野への展開を進めてまいります。

防災システムにおいては、近年多発する異常気象による大規模災害に迅速かつ的確に対応するための気象防災システムの拡充に注力しています。また、自然災害発生時に地域住民が早期に安心安全を確保できるよう、地方自治体の避難システムの連携にも力を入れております。今後の展開として、各施設や設備の情報を収集する手段としてドローンを活用した情報収集ソリューションの開発を進めております。

これらの結果、ソリューション事業の売上高は1,687百万円（前年同四半期比2.2%増）となり、セグメント損失は157百万円（前年同四半期は125百万円の損失）となりました。

② エンターテインメント事業

連結子会社の株式会社OSK日本歌劇団は、トップスターの退団公演を4月の松竹座、7月の京都南座、8月の新橋演舞場で上演し、いずれも過去最高の来場者数を記録しました。また、5月に上演した金沢公演は全席完売となりました。9月には新トップスターの就任を発表し、記念公演の第1弾として10月に山口県岩国市公演を上演しました。11月には大阪・関西万博のPRを目的とした「レビューRoad to 2025!!」公演を2年連続で上演し、福井県越前市では「第44回たけふレビュー」公演を1ヶ月間にわたり上演、さらに北海道苫小牧市や栃木県真岡市で地元出身スターの凱旋公演を上演するなど、10月から12月にかけて主力コンテンツの「レビュー」を全国各地の劇場にて披

露することができました。

これらの結果、エンターテインメント事業の売上高は492百万円（前年同四半期比57.9%増）、セグメント利益は34百万円（前年同四半期は21百万円の損失）となり、黒字化を達成することができました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は1,469百万円となり、前連結会計年度末に比べて218百万円減少しました。これは主として、流動資産その他が53百万円、無形固定資産が34百万円、仕掛品が21百万円それぞれ増加した一方で、現金及び預金が170百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が148百万円、投資その他の資産が14百万円それぞれ減少したことによります。

負債合計は277百万円となり、前連結会計年度末に比べて81百万円減少しました。これは主として、支払手形及び買掛金が65百万円減少したことによります。

純資産合計は1,191百万円となり、前連結会計年度末に比べて137百万円減少しました。これは、利益剰余金が137百万円減少したことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年5月15日に公表した連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	595,543	424,603
受取手形、売掛金及び契約資産	472,822	324,182
商品	36,274	35,859
仕掛品	7,749	29,562
その他	82,824	136,056
流動資産合計	1,195,215	950,264
固定資産		
有形固定資産	107,991	113,968
無形固定資産	50,989	85,721
投資その他の資産		
投資有価証券	154,813	154,813
その他	178,839	164,630
投資その他の資産合計	333,653	319,444
固定資産合計	492,634	519,133
資産合計	1,687,849	1,469,398
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	147,648	81,908
1年内返済予定の長期借入金	6,600	3,600
未払法人税等	22,308	15,165
その他の引当金	-	187
その他	169,146	166,651
流動負債合計	345,703	267,512
固定負債		
長期借入金	1,950	-
退職給付に係る負債	4,881	4,488
資産除去債務	5,512	5,513
その他	1,213	466
固定負債合計	13,557	10,468
負債合計	359,260	277,981
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,310,965	1,310,965
資本剰余金	229,198	229,198
利益剰余金	△106,949	△244,121
自己株式	△104,625	△104,625
株主資本合計	1,328,588	1,191,416
純資産合計	1,328,588	1,191,416
負債純資産合計	1,687,849	1,469,398

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	1,963,231	2,179,349
売上原価	1,469,465	1,648,665
売上総利益	493,765	530,684
販売費及び一般管理費	641,670	653,372
営業損失(△)	△147,905	△122,687
営業外収益		
受取利息	173	248
受取配当金	240	240
業務受託収入	7,750	900
その他	1,553	593
営業外収益合計	9,716	1,981
営業外費用		
支払利息	469	532
為替差損	1,687	1,709
その他	456	658
営業外費用合計	2,613	2,900
経常損失(△)	△140,802	△123,607
特別損失		
事務所改装費用	-	8,458
特別損失合計	-	8,458
税金等調整前四半期純損失(△)	△140,802	△132,065
法人税、住民税及び事業税	5,523	10,274
法人税等調整額	△1,014	△5,169
法人税等合計	4,509	5,105
四半期純損失(△)	△145,311	△137,171
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△145,311	△137,171

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純損失(△)	△145,311	△137,171
四半期包括利益	△145,311	△137,171
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△145,311	△137,171

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結損益 計算書計上額
	ソリューション 事業	エンターテイン メント事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,651,668	311,562	1,963,231	—	1,963,231
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,254	18,978	22,232	△22,232	—
計	1,654,922	330,541	1,985,463	△22,232	1,963,231
セグメント損失(△)	△125,644	△21,120	△146,765	△1,139	△147,905

(注) セグメント損失(△)の合計額と四半期連結損益計算書の営業損失との差額はセグメント間取引消去であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません

II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結損益 計算書計上額
	ソリューション 事業	エンターテイン メント事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,687,309	492,040	2,179,349	—	2,179,349
セグメント間の内部売上高 又は振替高	633	18,964	19,597	△19,597	—
計	1,687,942	511,004	2,198,946	△19,597	2,179,349
セグメント利益又は損失(△)	△157,040	34,154	△122,885	198	△122,687

(注) セグメント利益又は損失(△)の合計額と四半期連結損益計算書の営業損失との差額はセグメント間取引消去であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	28,503千円	39,037千円
のれんの償却額	2,754千円	— 千円